

# 2018年度 佐久長聖中学校 学校関係者評価

評価 A: 評価 A: 十分できている B: 概ね十分できている C: やや不十分 D: 不十分 E: 評価できない

| 分野                         | 評価項目                  | No.   | 評価の観点   | 評価   | 今後やるべきこと、実施に当たっての問題点  |
|----------------------------|-----------------------|---|---|--|---|
| 学<br>習<br>指<br>導           | 授業内容の充実               | 1   | 授業評価を適宜行い、その内容を踏まえて授業の方法を工夫・改善して、生徒の学ぶ意欲を喚起しているか。     | B  | ・生徒が自分のできないところを自己確認できる仕組みを作ってみてはどうか。<br>・下位層を注目がちなので上位層にも目を向け力を伸ばしてほしい。 |
|                            |                       | 教科指導力の向上  | 2   | 研究授業のほかに教員相互の授業参観や相互批評をしているか。アクティブラーニングの手法を試みているか。                                 | B   |
|                            | 3                     |   | 各種の模試・検定などの客観的データを教科会や各自で分析し、生徒の学力に応じた授業を行っているか。      | A  | ・教科担当と学級担当との協力体制をより密にしたい。<br>・高校進級後の学力についても確認し、今後の学習指導の参考にしてほしい。        |
|                            | 学習習慣の確立と自主的な学びへの導き    | 4   | (学級担任として)生徒の学習状況・学習時間を把握し、面接によって個々に即した適切な助言をしているか。    | A  | ・定期的な面談以外に個々の状況に応じた面談を随時行う。<br>・きっかけがあれば大きく変われる年頃なので声かけを続けてほしい。         |
|                            |                       | 5   | (教科担当として)学力や時期に応じて質的・量的に適切な課題を出して、日々の学習や計画的学習を促しているか。 | A  | ・自ら必要な課題を考える力を身につけさせてほしい。<br>・苦手な生徒が学習しやすいように、週末基礎的な内容の課題を出す。           |
|                            |                       | 6   | 生徒が自主的に取り組んだり探求したりする力をつけるための課題や学びの機会を、工夫して提供しているか。    | A  | ・さらに生徒が興味を引くような導入の工夫や学習課題の設定。<br>・実験の回数を少しでも増やし、理系離れを少なくしたい。            |
| 進路指導                       | 希望進路の実現               | 7   | 学級担任・教科担当として6年間を見通した指導をしているか。学年会・教科会がそのために機能しているか。    | A  | ・生徒自身が活動を作り上げていくという経験をさせていきたい。<br>・探究心旺盛な生徒のためのプラスアルファを考えたい。            |
| 進路指導                       | 新しい時代を展望できる進路指導       | 8   | 社会への視野を広げ、自分の人生の目標を考える機会としてのキャリア教育を、計画し、実施しているか。      | B  | ・プレゼンテーションに向けた洞察力・思考力・伝達力育成のサポート。<br>・「道徳」について計画的に取り組んでいく必要がある。         |
| 生<br>活<br>指<br>導           | 自律的生活の育成              | 9   | 服装・挨拶など生徒の自律的取り組みを促しているか。モラルや思いやりにつながる、心の指導をしているか。    | A  | ・生徒同士での働きかけを促す方法を考えたい。<br>・心の指導、他人を思いやることをもう少し力を入れたい。                   |
|                            |                       | 生徒相談といじめの発見・対処                                  | 10  | 担任・学年・部活顧問・館職員・生徒指導係等が連携を取りながら、適切に生徒相談に当たっているか。                                    | A   |
|                            | 11                    |   | 現在の「いじめ」の定義(注)に基づいていじめを認知し、職員間で情報を共有して適切に対応しているか。     | A  | ・まず現場にいる人がその場で注意することを怠らない。<br>・生徒アンケートは各学期1回ずつは実施していくようにしたい。            |
|                            | 安心・安全を守る指導、安全を考えさせる指導 | 12  | 校内の安全点検や日常の目配りを重視し、事故や危険を防止できているか。                    | A  | ・様々な面で安全な学校にし、保護者の信頼を得たい。<br>・緊急時マニュアルの確認を怠らず、年1回は行いたい。                 |
| 13                         |                       | 校外での交通安全や防犯(インターネットによるトラブルの回避も含む)についての指導をしているか。 | B   | ・インターネットの危険性に対する生徒の意識はまだまだ低いので学校全体で取り組んでいきたい。<br>・SNSについてなど、外部講師による教育を学校全体でしていくべき。 |   |
| 開<br>か<br>れ<br>た<br>学<br>校 | 開かれた学校づくり             | 14  | 保護者や地域の方の意見・要望をくみとり、必要なことには、すばやく、的確に対応しているか。          | A  | ・地域と保護者の願いでもある進学実績を上げるために努力したい。<br>・保護者からの要望には今後も誠意ある対応をして協力を得たい。       |
|                            |                       | 15  | 電子媒体や紙媒体を通して、各種の情報を生徒・保護者や一般に向けて、定期的に提供しているか。         | A  | ・情報の発信方法を専門家からも学ぶ機会を持ってほしい。<br>・生徒寮やクラスだけでなく、教科通信も発行してはどうか。             |
|                            |                       | 16  | 地域の方や校外の団体等と交流できる機会を、生徒に提供しているか。学校として交流に寄与しているか。      | A  | ・海外の学校との交流は今後も積極的に続けてほしい。<br>・文化祭で地域の方との交流ができる企画を検討してほしい。               |

(注)一定の人的関係がある生徒の中で、一方が他方に心理的・物理的な影響を与える行為をして、対象となった生徒が心身の苦痛を感じていること。一時的なものや謝罪して解決したものも、「いじめであった」と考える。